

安全・安心な水を届けて80年

～水道に 寄せる信頼 飲む安心～
平成22年度水道週間スローガン

豊橋市の水道は、昭和5年に小鷹野浄水場（東小鷹野二丁目）が完成し、今年で80年を迎えました。

みなさんは、水道が無い暮らしを想像できますか。

水道の無い時代は、井戸水に頼り、本市では人口が増えるにつれ地下水の枯渇をまねき、水質の悪化から赤痢や腸チフス等の感染症による死亡率が高くなりました。

水道は、衛生的な市民生活への期待と重要な都市基盤としての役割を担い造られました。

終戦後の水道は、高度経済成長や人口の増加とともに水の需要も増えたことで、雨が少ない年には、何度も湯水のピンチに直面しました。

近年では、暮らしの中で「水を大切に。無駄にしない。」といった節水意識の向上や節水型まちづくりなどの推進もあり、38万人都市の水需要の支えになっています。

暮らしの重要なライフラインとして上下水道局は、安全で安心な水を今後もみなさんに供給し続けて参ります。



昭和5年当時の小鷹野浄水場



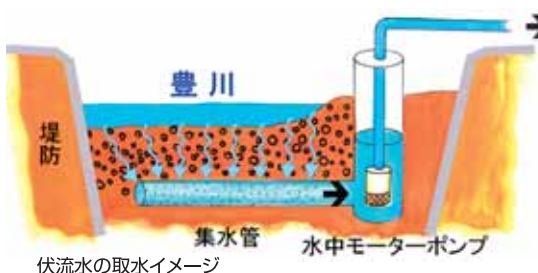
3つの仕組みが『おいしい水』を支える

1. 森林が蓄える

豊橋の水源地は、元をたどれば奥三河の森林です。この森林は、「水源林」といい「緑のダム」とも呼ばれ、土壌に水を蓄えて少しずつ川に注ぐ機能があります。しかし、この森林もきちんと管理しないと機能しないため、恩恵を受けている東三河の市町村でも、水源林の保全活動に取り組んでいます。



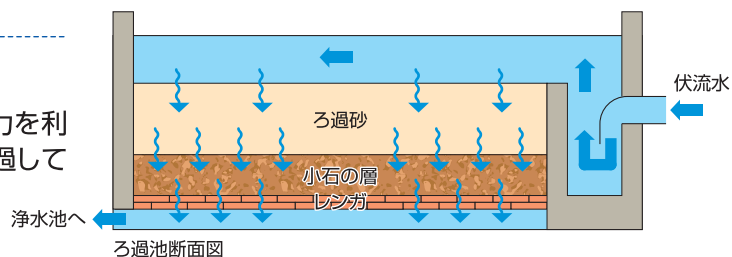
森を元気にする間伐作業



伏流水の取水イメージ

2. 工夫した取水

大雨で豊川の水が濁ったとき、川から直接水を取る方法では浄水できません。そこで下条取水場では、川底から浸透した水（伏流水）を汲み上げ、いつでも清らかな水を取水できるような仕組みとなっています。

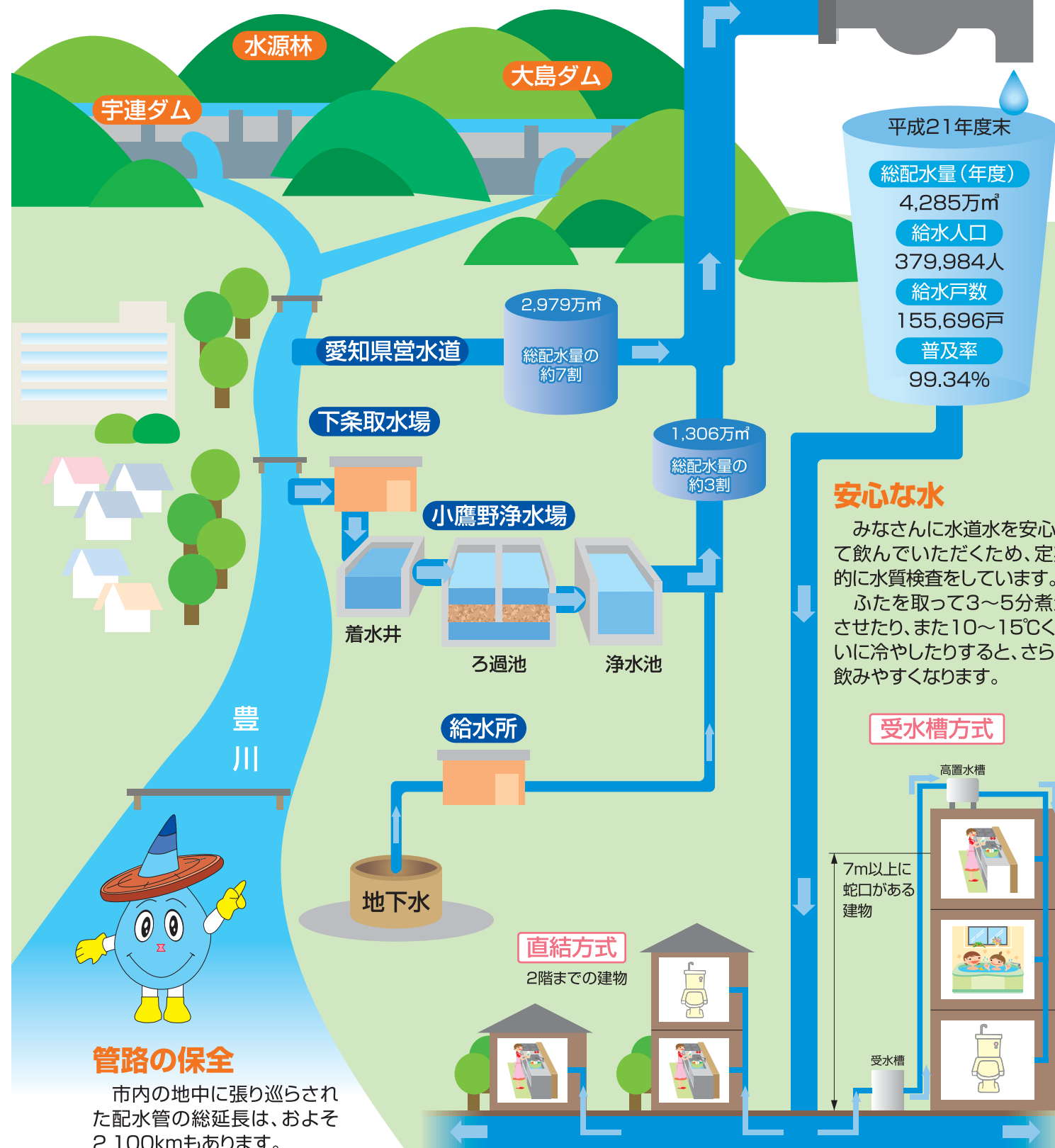


ろ過池断面図

3. ゆっくりと水をみがく

小鷹野浄水場は、薬品を使うことなく自然の力を利用し、1日に5mのゆっくりとした速さで水をろ過しています。

水道水が届くまで



平成21年度末

| | |
|----------|----------------------|
| 総配水量(年度) | 4,285万m ³ |
| 給水人口 | 379,984人 |
| 給水戸数 | 155,696戸 |
| 普及率 | 99.34% |

安心な水

みなさんに水道水を安心して飲んでいただくため、定期的に水質検査をしています。ふたを取って3～5分煮沸させたり、また10～15℃くらいに冷やしたりすると、さらに飲みやすくなります。

受水槽方式



管路の保全

市内の地中に張り巡らされた配水管の総延長は、およそ2,100kmもあります。配水管は、定期的に点検するとともに、地震に備えた整備も進めています。

【お知らせ】

7m以上に蛇口がある建物は、水道水をいったん水槽に貯める受水槽方式を利用しているため、設置者（管理者）の点検、清掃等の適正な管理が必要です。

問合せ先▶給排水課 ☎(0532) 51-2722 (平日 8:30～17:15)